

**Operators
Manual
DN8000**

内容

適合の申告	4
KLARK TEKNIK製品を使用いただき感謝します	5
ユニットを開けたら	6
DN8000:OVERVIEW	7
DN8000: 信号フローチャート	9
DN8000: メインスクリーンディスプレイ	10
エディットメニュー: OVERVIEW	11
全体構造	11
エディットメニュー: 3つのパラメータリスト	13
メインパラメータリスト	14
マスターディレイ入力A	14
マスターディレイ入力B	14
ソースの選択	14
出力ディレイ	14
極性	14
位相調整	15
出力レベル	15
出力ラベル	15
イコライザーパラメータリスト	16
ハイパスフィルター周波数	16
ハイパスフィルターレスポンス	16
ハイパスフィルターピーク	17
ローパスフィルター周波数	17
ローパスフィルターレスポンス	17
パラメトリックフィルター1、周波数	18
パラメトリックフィルター1、'Q'	18
パラメトリックフィルター1、レベル	18
パラメトリックフィルター2、周波数	18
パラメトリックフィルター2、'Q'	18
パラメトリックフィルター2、レベル	18
ローイコライザーフィルター周波数	19
ローイコライザーフィルターQ/スロープ	19
ローイコライザーフィルターレベル	19
ハイイコライザーフィルター周波数	19
ハイイコライザーフィルタースロープ	19
ハイイコライザーフィルターレベル	20
ダイナミックスパラメータリスト	21
コンプレッサースレッシュヨールド	21
コンプレッサーレシオ	21
コンプレッサーアタック	21
コンプレッサーリリース	22
ゲートスレッシュヨールド	22
ゲートレンジ	22
ゲートディケイレート	22
リミッタースレッシュヨールド	23
オプションメニュー	24
リミッタースレッシュヨールドユニット	24

コンプレッサースレッシュールドユニット	24
コンプレッサーリンク	24
アウトメーターユニット	25
メーターピークホールド	25
ディレイユニット	25
ディレイ温度補償	25
クリップ/リミッターログ	26
最大出力レベル	26
ユーザーリストの部分修正	26
どのリスト	28
ロックアウトPIN	28
アンロック	29
外部の通信チャンネル	30
ユーザーメモリープロテクト	30
メモリーダンプス（移動）	31
電源投入時のミュート時間	33
LCD コントラスト	33
LED ブライトネス	33
ヘルプ情報	33
ソフトウェアバージョン	34
エンジニアプロファイル	34
DN8000を外部通信の接続	37
リモートコントロール	37
メモリーアクセス	38
メモリーリコール	39
メモリーセーブ	41
OEM プリセット	43
注意項目の追加	44
コンプレッサーリンク	44
コンペアーファンクション	44
単一メモリーリセット	46
メモリー名編集	46
ミュートスイッチ	46
A/Dコンバーター&入力レベルコントロール	46
バッテリーロー警告	47
三次元メーター監視	48
ロックモードのPot / Mute作用	48
クイックロック	49
一般的なプリセットと設定テーブル	49

適合の申告

以下に従うことにより、この申告に適合します。

89/336/EEC 電磁適合性指示は、92/31EEC と 93/68EEC によって改正された。

73/23/EEC 低電圧指示は、93/68/EEC により改正された。

これによりカバーされる商品

機器タイプ	製品名	互換品
グラフィックイコライザー	DN300	DN360, DN301, DN332
プリセットイコライザー	DN320	DN330
パラメトリックイコライザー	DN405	DN410
ダイナミックプロセッサー	DN500	DN504, DN510, DN514
オーディオアナライザー	DN6000	
クロスオーバー	DN800	
ディレイライン	DN7204	DN7103
プログラムイコライザー	DN3600	DN3601
リモートコントロールシステム	DN3698	DN3603
クロスオーバー	DN8000	
プログラムイコライザー	DN4000	

下記に従うことによって、これは申告に適合します。

上記製品、及びその変形は、上記 EU 指導による下記の基準に従うものであります。

EN 50081-1 (EN 5022 クラス B)

EN 50082-1 (IEC801 パート 2, 4/ENV50140/50141

EN 60065

署名 N . G T e m b e

権限 技術上長 EVI AUDIO (U,K)

日付 1997 年 1 月 1 日

注意！

ケーブル：

この製品は、必ず金属性3ピンXLRコネクタが付いた高品質な2芯シールドケーブルを使用してください。ケーブルのシールドは pin1と接続して下さい。

他のタイプのオーディオケーブルを使用することにより、電磁干渉の影響などを受けやすくなり、性能の低下を生じるかもしれません。

電界：

もし可聴周波数信号（20Hzから20kHzまで）の電磁界などにおいてこの製品が使われるならば、信号から見たノイズ比率は低下するでしょう。

厳しい条件以下（3V/m、90%変調）では、変調信号に相当する周波数によりますが、60dB以上の劣化で動作するでしょう。

性能の永久的な損害または劣化は、これらの条件により全然起きる事は有りません。

KLARK TEKNIK製品を使用していただき感謝します

最大の性能をこの精度エレクトロニクス製品から得るために、どうぞ、この手順を慎重に読んでください。設置およびDN8000を操作することは複雑では有りませんが、それによってその操作、機能、長所、に慣れる事によりその操作と接続が容易になります。このユニットは、あなた方の電源事情に従うように設計されています。

用心

ユニットを電源に接続させる前に、あなた方に供給されている操作電圧が正しいことを確認してください。操作電圧は後ろパネルにおいて示されます。
このユニットを、過度な熱、ほこり、またはメカニカルな振動が加わる場所での設置は避けてください。

電源接続

接続はIEC標準パワーソケットによって行えます。ユニットは、50Hzから60HzまでとAC電圧100Vから240Vまでで動作します。
このユニットに電源と接続する前に、ヒューズが適合していたことを確認してください。後ろパネルのヒューズホルダーの隣に表記されている、正しいタイプであることを確認してください。

安全警告

このユニットは3ピンパワーソケットを取り付けられます。安全のために、アースリードの接続を行わなくてはなりません。
ショックまたは火危険を防止するためには、ユニットを雨または湿度にさらさないでください。
電気ショックを避けるためには、カバーを取り去らないでください。危険な電圧がユニット中で存在します。資格のある人間だけが開けるようにして下さい。

あなたがユニットを開けた後に

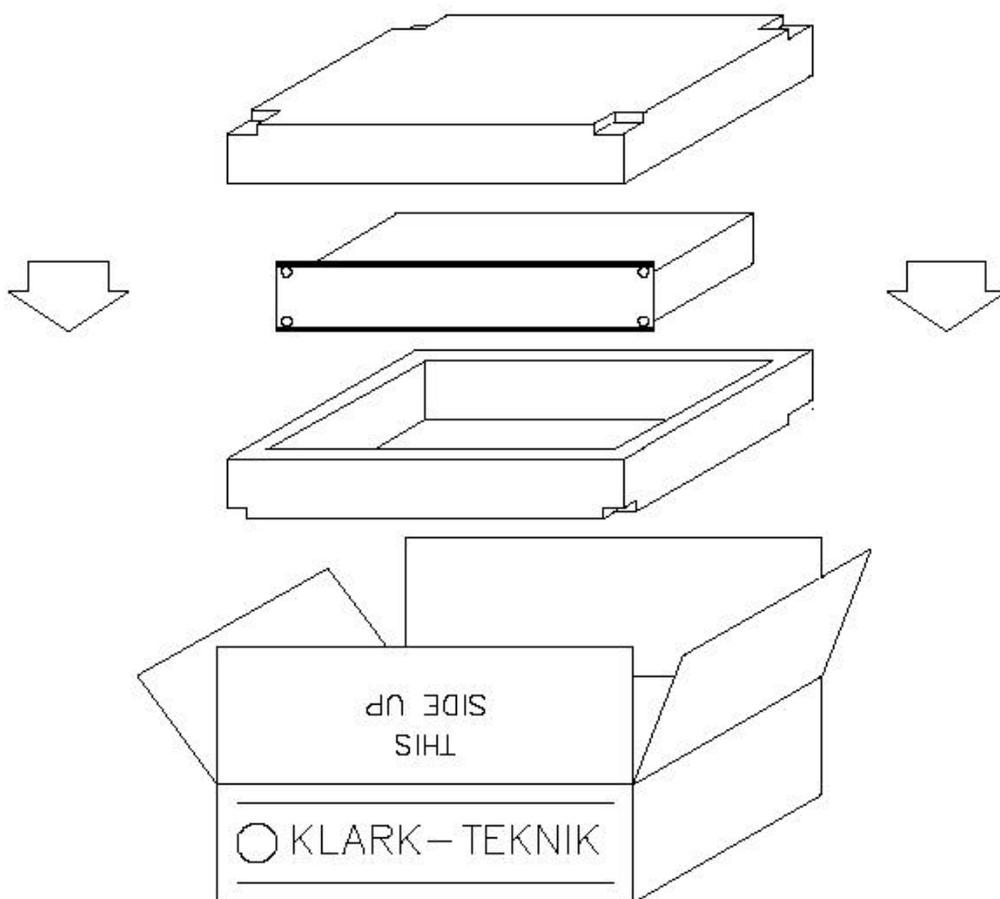
すべての梱包材は大切に保存してください。今後この製品を送り返す可能性があるかもしれないからです。

どうぞ、輸送途中に損傷を受けた形跡がないかを慎重に確認してください。

この商品は、梱包する前に、厳格な品質管理検査とテストを行い、完全な条件で工場を出荷しています。

もし、ユニットに損傷の形跡がありましたら、速やかに運送業者に届け出てください。輸送途中の損傷に関しては、荷受人であるあなただけが輸送会社に対して主張（クレーム）を発生させることができます。

必要ならば、代理店または、Klark-Teknik輸入代理店に連絡をしてみてください。どのような事態に対しても十分に協力をいたします。



エキスパンダーモジュール

これは、スレッショルド、ホールド、およびリリースの調整が可能です。

リミッタ - モジュール

これは単に、スレッショルドの調整のみです。それは『0のオーバーシュート』デザインです、そして回路の外すことはできません。

アウトプットにいくらのEQが追加されても問題なくクリップを出力させないようにすることができます。

フェイズコントロールモジュール

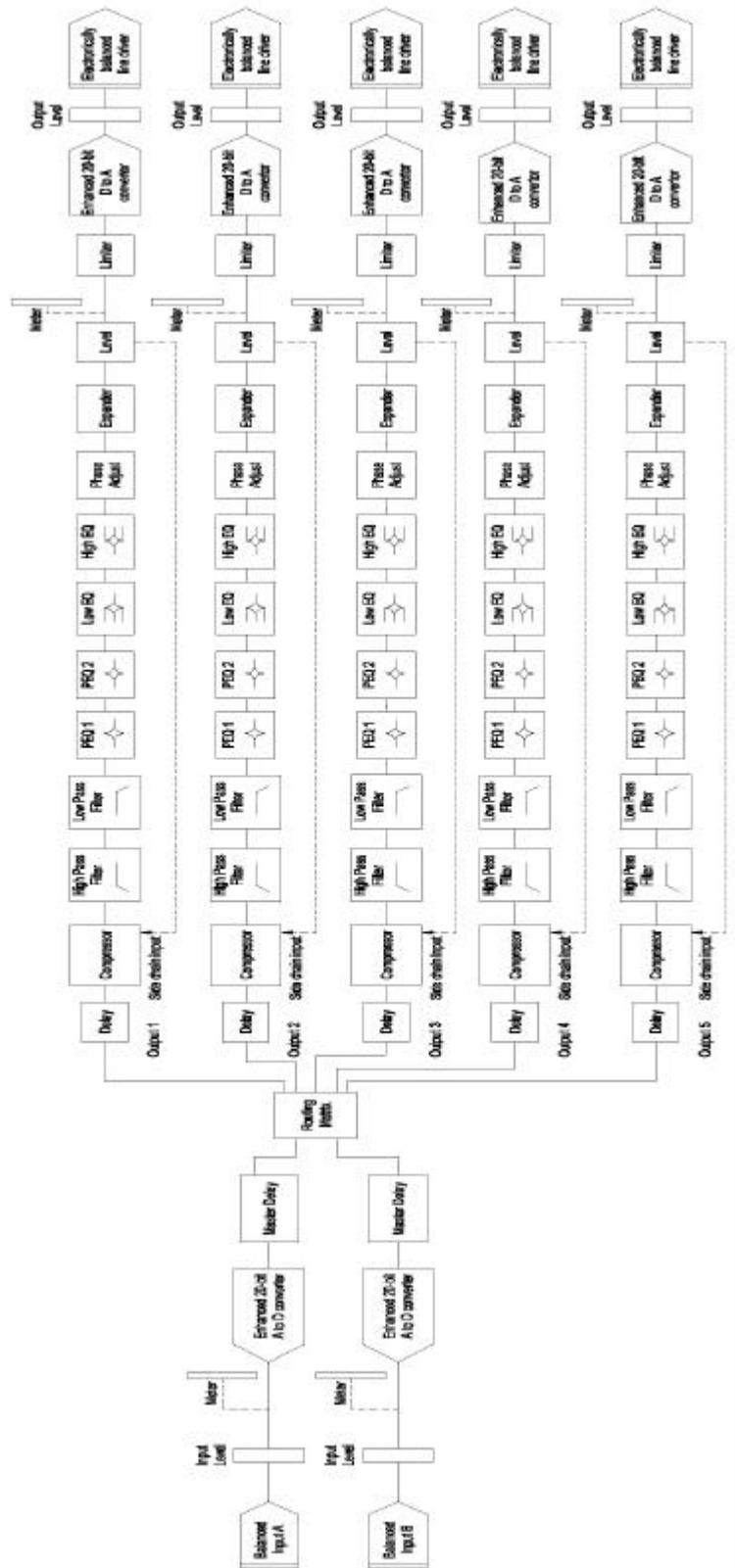
これは、フェイズをリバーズする（スイッチ）ことが可能で、また、5°ステップで位相を調整する事ができます。

レベルコントロールモジュール

これはワイドレンジでアウトプットのレベルの調整を可能にします。

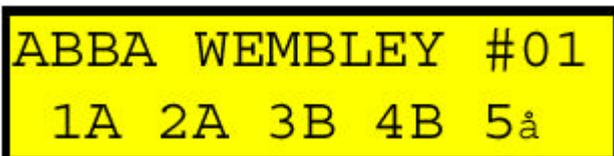
これらのモジュールブロック図は信号フローチャートにおいて示されます。

DN8000: SIGNAL PATH FLOW CHART



メインスクリーンディスプレイ

通常のスクリーンはメモリー名および基本的なクロスオーバーを示します。これはルーティング情報のフォームを示します-バンド表記は個々のアウトプットセクションの上のラベルLEDが点灯します。典型的なディスプレイは、



ABBA WEMBLEY #01
1A 2A 3B 4B 5_a

これから アウトプット1と2がインプットA、3と4はインプットBから供給されて、5が両方（『a』またはboth）から供給されていることをわかりやすく示されています。

どちらのインプットからも供給されない時は『 - 』と表記されます。

名前は、ユーザーメモリーでは12文字まで、OEMプリセットは16文字が表記できます。

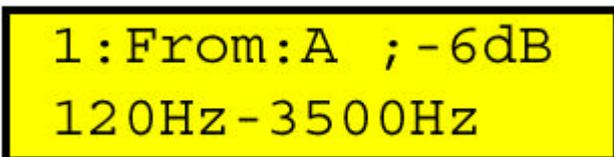
それぞれのフロントパネルのアウトプットレベルコントロールは、プッシュ式スイッチになっています。

これは、調整で利用可能なパラメータのリストが多いので、編集スクリーンの時に、より迅速なナビゲーションを可能にします。

アウトプット選択スイッチの付加的な機能は、メインスクリーンに表示される時にそれぞれ出力データを多くの情報評価を与える必要があります。

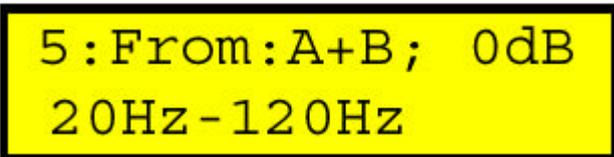
アウトプットセレクトを押すことにより、ルーティング情報とカバーしている周波数レンジを示されます。

そのアウトプットで、例えば、上記のセットアップのためのアウトプット1を表示すると



1 : From : A ; -6dB
120Hz - 3500Hz

および、アウトプット5を表示します。モノベース用のアウトプットが示されます。



5 : From : A+B ; 0dB
20Hz - 120Hz

EDIT MENU: OVERVIEW

パラメータのオーダーとナンバーは、この文書において他の場所に説明されるようにユーザーパラメータリストの使用を通じてある程度のユーザーに適するように適応すると思います。

しかし、このリストが十分ではなく、すべてのパラメータを再調整が必要であるかもしれない多くのケースがあります。

全体構成

DN8000での編集は3つのサブセクションに分けられます。- これらとそれらの内容は下で概説されます:

Main- Delay
Source (Routing)
Phase
Output Level
Label (Front Panel Icon)

EQ- High Pass
Low Pass
PEQ 1
PEQ 2
Low EQ
High EQ

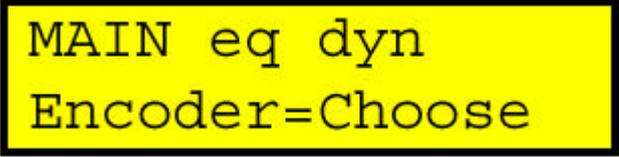
Dynamics- Compressor
Expander
Limiter

エディットが押されて、オプションの「Which List?」を「ALL」にセットされる時、初期のヘルプ画面が数秒、以下の様に表示されます。注意することはボタンが押される時には、ユーザーは、ヘルプ画面が表示続けるのでそれを待ち続ける必要はありません。どのような画面でもヘルプ案内が1回だけ表示をします。ヘルプを表示なし設定するか、または次の正しい操作ステップが押す / 回転であるかを知らせることができます。このヘルプ動作はオートマティカルでクリアーし続けます。

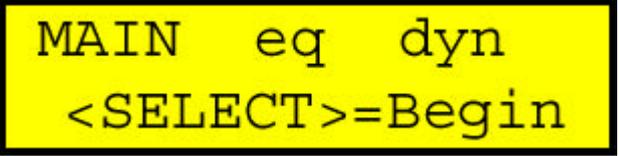


Edit Mode: Press
Again to Exit!

続いて....



MAIN eq dyn
Encoder=Choose



MAIN eq dyn
<SELECT>=Begin

すべて2秒間表示します。

ここのアイデアは、編集し始めるためにエンコーダでサブリストを選ぶことであり、選択キーを押すことにより直ちにそのリストに入ります。エンコーダは、どのリストを選んで

いるかを大文字でリストタイトルを表示し『セレクト』ボタンを押すことにより入る事ができます。例えば、

```
MAIN  eq  dyn
Encoder=Choose
```

又は

```
main  EQ  dyn
Encoder=Choose
```

又は

```
main  eq  DYN
Encoder=Choose
```

従って、大文字によって書かれた『メイン』によって、選択ボタンを押すことにより、成っている主要なパラメータ編集リストは：

- master delays,
- routing,
- output delay,
- phase,
- output level,
- label.

同様に、『EQ』のイコライザー編集に直接入り、セクションリストは：

- high pass,
- low pass,
- PEQ 1,
- PEQ 2,
- low EQ,
- high EQ.

最後に、『DYN』によって、ダイナミクス編集のためのリストに直接入ります、セクションリストは：

- compressor,
- expander,
- limiter.

上記の3ステージのうち、どれでもセレクトボタンを押すことにより、現在選ばれたサブリストだけのパラメータリストをスクロールすることができます。

もし違うリストが選ぶ必要があるならば、エディットを、2回（リスト選択ステージでモードを終了させ再入場すること）押すことで、すばやく可能にします。またENTERキーでもMAIN / EQ / dynamicsがスクロールできることを覚えて置いてください。

3つのリストの中で最後に選ばれたパラメータはリストに再入力される時に、編集が以前に続けることができるように記憶されます。エディットを押した時、いつもリストの最初に『メイン』が選ばれるようになっています。

比較（コンペアー）機能は、エディットする時に行うことが可能です。どうぞ、このマニュアルの後ろに付属している「Functionを比較してください」セクションを読んでください。

Edit Menu:3つのパラメータリスト

リストの構造とオペレーションは、ボトムレベルで試験された詳細なリストの内容を可能にするために、現在十分な詳細によりカバーされました。記述は、与えられた個々のパラメータの範囲によってスクリーンショットのフォームを取ります、それとどのような付加的なポイントでも必要です。

この段階でアウトプットレベルのコントロールの使用は、『セレクトを押す』行動でコントロールします。

それらの主要な機能は編集する時、調整のためにそれぞれ出力を選択することで行えます。5つのアウトプットを持つパラメータをスクロールするアイデア- 例えば、PEQ1周波数、アウトプット-1、PEQ2周波数、アウトプット-2など。

5つのアウトプットを1つのパラメータをスクロールするのではなく、セレクトスイッチは次のパラメータを選びます。

選ばれたアウトプット表示

それは編集モードの間にアイコンとしてスクリーンに表示されますが、アウトプットが選ばれる時には、関連したウィンドウのそのラベルがフラッシュしはじめます。

警告：デフォルトパラメータ値について

どうぞ注意してください、ユニットが工場から送り出す時、それは、パワーオンにしてロードされるワーキングメモリーを含むすべてのメモリーを持って含んでいます。デフォルト値に設定してください。

ユーザー設定が予測できず（具体的なOEMプリセットが要求されない限り）これらの設定により、最初の接続においてスピーカーシステムへの損害のリスクを最小化するために選ぶ事です。

しかし、最初、電源を入れる時どのクロスオーバーフィルタも適用しないため、確認のためオーディオの接続をユニットに全くしないことを強く推奨されます。

ハイ/ローパスフィルタは、調整ゲイン、ルーティング、またはダイナミックパラメータに先がけて適切な値を採用しなければなりません。

これらは、インプットレベルを問わず、最小アウトプットレベルに設定する必要があるからです。

MAINのパラメータリスト

マスターディレイ、入力A

```
EDIT[A]:Master Del
■■■■■■■■■■ 1300000 us
```

レンジ：2ms ~ 1300ms

注：他の入力と出力のトータルディレイで最大1300ms

マスターディレイ、入力B

```
EDIT[B]:Master Del
■■■■■■■■■■ 1100000 us
```

レンジ：2ms ~ 1300ms

注：他の入力と出力のトータルディレイで最大1300ms

ソースセクション

```
EDIT[1]:Source
Input A [A]
```

レンジ：A、B、A+B、Off

注：これらは、『A』、『B』、『a』、および『-』としてスクリーンにそれぞれ表示されます。

選択したい主なソースはマスタ/アウトプットディレイに依存します。

アウトプットディレイ

```
EDIT[2]:Output Del
■■■■■■■■■■ 4456 uS
```

レンジ：2mS ~ 300mS

注：これは、マスターディレイの最大1300mSから割り当てられます。

極性

```
EDIT[2]:Polarity
Reversed
```

レンジ：ノーマル/反転

EQ パラメーター リスト

ハイパスフィルター周波数

EDIT  :HPF:Freq.
    15000 Hz

レンジ：20Hz～15000Hz

ハイパスフィルターレスポンス

EDIT  :HPF:Resp.
Lnk-Ril 24dB/Oct

レンジ：下記のリストとフルレンジ (Off)

6dB/Oct
Bessel 12dB/Oct
Butter 12dB/Oct
Lnk-Ril 12dB/Oct
Peaking 12dB/Oct
Bessel 18dB/Oct
Butter 18dB/Oct
Bessel 24dB/Oct
Butter 24dB/Oct
Lnk-Ril 24dB/Oct
Peaking 24dB/Oct
Bessel 36dB/Oct
Butter 36dB/Oct
Lnk-Ril 36dB/Oct
Bessel 48dB/Oct
Butter 48dB/Oct
Lnk-Ril 48dB/Oct

注：もし『フルレンジ』が選択されたならば個々のシステムコンポーネントを保護するためアウトプットにミュートがかかります。これを解除する事は、手動で行ってください。しかしいつも自動でミュートがかかります。

ハイパスフィルターピーク

EDIT  :HPF:Peak
 2 dB Lift

レンジ：0dB～6dB

注：これは別のフィルターの使用しないでコーナー周波数で特別な強調を行うフィルターのアンダーダンピングです。もしハイパスフィルタレスポンスタイプを「Peaking」タイプに設定されるならば、このパラメータは調整可能になります。すべての他の状況の下では、持ち上げることはあてはまりませんので、0dBで固定されています。これは、ディスプレイにより反映が確認できます。

EDIT  :HPF:Peak
 0 dB [Set]

持ち上げる設定は、ピーキングタイプフィルタに適用した時、記憶されます。

ローパスフィルター周波数

EDIT  :LPF:Freq.
 1250 Hz

レンジ：50Hz～20000Hz

ローパスフィルターレスポンス

EDIT  :LPF:Resp.
Lnk-Ril 24dB/Oct

レンジ：下記のリストとフルレンジ (Off)

- 6dB/Oct
- Bessel 12dB/Oct
- Butter 12dB/Oct
- Lnk-Ril 12dB/Oct
- Bessel 18dB/Oct
- Butter 18dB/Oct
- Bessel 24dB/Oct
- Butter 24dB/Oct
- Lnk-Ril 24dB/Oct
- Bessel 36dB/Oct
- Butter 36dB/Oct
- Lnk-Ril 36dB/Oct
- Bessel 48dB/Oct
- Butter 48dB/Oct
- Lnk-Ril 48dB/Oct

注：個々のシステムコンポーネントを保護するために、もし『フルレンジ』が選ばれるならば、選ばれたアウトプットはミュートします。これを解除する事は、手動で行ってください。しかしいつも自動でミュートがかかります。

パラメトリックフィルター 1-周波数

EDIT  : PEQ1 : Freq.
 1250 Hz

レンジ : 20Hz ~ 20000Hz

パラメトリックフィルター 1-Q

EDIT  : PEQ1 : 'Q'
 2.5 Oct.

レンジ : 0.08 ; 0.01 ~ 1.0 (0.1ステップ) ; 1.2 ; 1.5 ; 2.0 ; 2.5 ; 3.0

注 : 示されている『Q』はオクターブバンド幅を表示しています。

パラメトリックフィルター 1-レベル

EDIT  : PEQ1 : Level
+3.5dB

レンジ : -12 ~ +12dB (0.5dBステップ)

パラメトリックフィルター 2-周波数

EDIT  : PEQ2 : Freq.
 1250 Hz

レンジ : 20Hz ~ 20000Hz

パラメトリックフィルター 2-Q

EDIT  : PEQ2 : 'Q'
 2.5 Oct.

レンジ : 0.08 ; 0.1 ~ 1.0 (0.1ステップ) ; 1.2 ; 1.5 ; 2.0 ; 2.5 ; 3.0

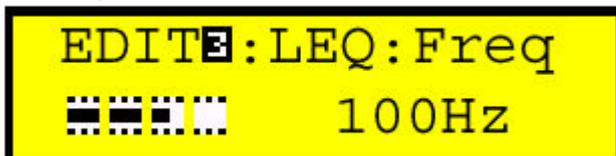
注 : 示されている『Q』はオクターブバンド幅を表示しています。

パラメトリックフィルター 2-レベル

EDIT  : PEQ2 : Level
+3.5dB

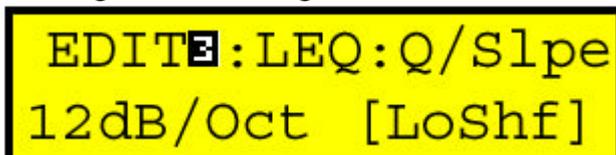
レンジ ; -12 ~ +12dB (0.5dBステップ)

ローEQフィルター 周波数



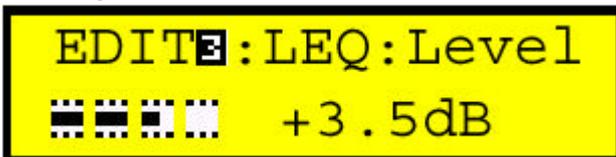
レンジ：20Hz～1000 Hz

ローEQフィルター Q/スロープ



レンジ；パラメトリックについての『Q』、シェルピングについての6又は12dB/Octaveです。
注：このフィルターは、パラメータと最も広い『Q』設定の1つ上のステップのシェルピングの間をエンコーダを回すことによって切り換えることができます。
これは、選択可能なレスポンスによって、シェルピング反応に変換します。

ローEQフィルター レベル



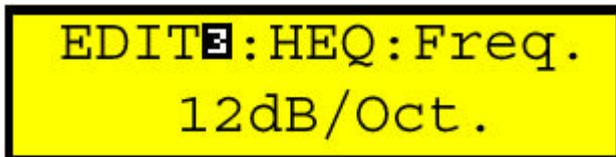
レンジ：-12dB～+12dB（0.5dBステップ）

ハイEQフィルター 周波数



レンジ：500Hz～15kHz

ハイEQフィルター スロープ



レンジ：パラメトリックについての『Q』、シェルピングについて6又は12dB/Octaveです。
注：このフィルターは、パラメータと最も広い『Q』設定の1つ上のステップのシェルピングの間をエンコーダを回すことによって切り換えることができます。
これは、選択可能なレスポンスによって、シェルピング反応に変換します。

ハイEQフィルター レベル

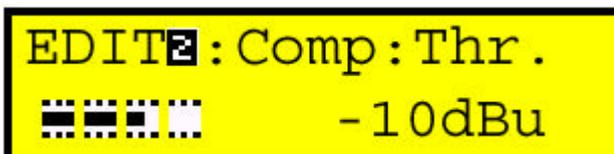
EDIT  : HEQ : Level
 +3.5dB

レンジ : -12dB ~ +12dB (0.5dBステップ)

ダイナミックパラメータリスト

注：コンプレッサーと関連するどのようなパラメータでも編集される時には、出力メーターは、ゲインリダクションの適用値を見せるように、モードを自動的に変更します。これはメーターの上部（赤いLED）から読みます。フロントパネルスケールが正確に適応します。従って例えば、赤いLEDおよび2つの黄色LEDが点滅したなら、9dBのゲインリダクションがそのアウトプットにかかっています。

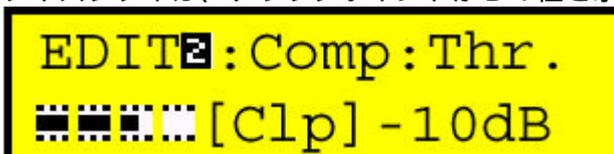
コンプレッサースレッシュールド



レンジ：-10dBu ~ +22dBu

注：使われたユニットは、オプションメニューで調整可能で、絶対値（dBu）にセットできます。クリップポイントからの値、又はリミッタースレッシュールドからの値、が切り替え可能で、選択した表示の確認は、下記のテキストのように表示されます。

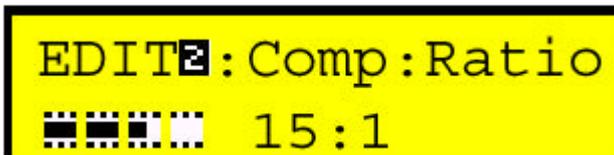
ディスプレイは、クリップポイントからの値を示します。



そして、リミッタースレッシュールドからの値です。

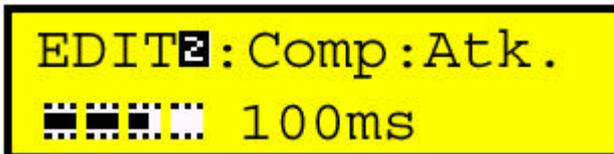


コンプレッサーレシオ



レンジ：1:1 ~ 15:1

コンプレッサーアタック



レンジ：最少（100µs）～オート

注：最大の設定より1つ上のステップが、高いパスフィルタ周波数設定を自動的に追跡することをコンプレッサーに強制します。HPF周波数が調整される時には、これは、最適なアタックタイムが設定されます。

ディスプレイの表示は

EDIT²: Comp: Atk.
Track HPF

コンプレッサーリリース

EDIT²: Comp: Rel.
5000ms

レンジ：10ms ~ 5000ms

ゲートスレッシュホールド

EDIT⁴: Gate: Thr.
-80dBu

レンジ：-80dB ~ -10dB

ゲートレンジ

EDIT⁴: Gate: Range
25dB

レンジ：0dB ~ 70dB

注：ゲートが閉じられる時には、範囲は弱めのレベルを設定します。もしこれが0dBに設定されるならば、ゲートはかかりません、そしてディスプレイに表示されません。

EDIT⁴: Gate: Range
0dB [Off]

ゲートディケイレンジ

EDIT⁴: Gate: Decay
0.03dB/ms

レンジ：0.01dB/ms ~ 0.1dB/ms (0.01dB/ms ステップ)、そして
0.1dB/ms ~ 2.0dB/ms (0.1dB/msステップ)

注：このパラメータはゲートがどの時間で閉まるかのスピードを設定します。
そのようなものとして、レートと範囲と相互に関係づけます。

リミッター-スレッシュホールド

EDIT \square :Limit:Thr.
 -4dBu

レンジ：-10~+22dBu

注：+22dBuにリミッターを設定したならオフの効果と同じです。

使われたユニットは、オプションメニューで調整可能です、そして絶対値（dBu）又は、クリップポイントからの値に設定できます。選択した表示の確認は、下記のテキストのように表示されます。

ディスプレイはクリップポイントからの値を示しています。

EDIT \square :Limit:Thr.
 [Clp] -10dB

オプションメニュー概要

オプションメニューは、オーディオと直接関連しなかったすべてのユーザー調整可能なパラメータを含んでいます（アウトプット基本設定を含みます）、従って、個々のメモリーに蓄えられません。

オプションを押すと、オプションのリストに入る前に、短いヘルプテキストがスクリーンを表示します。オプションから抜け出し時は、いつでも再びオプションを押すことにより、可能です。ヘルプスクリーンは下記のように表示されます。

```
Options: Press  
Again to Exit!
```

リミッタースレッシュールドユニット

リストの最初に表示されます、続いて順に表示されていきます。

```
Limit Threshold  
in dB from Clip
```

レンジ：dBu；Volts；dB from Clip

注：上記のレンジの読み取り表示がボルトにすることで「マックスアウトプットレベル」パラメータ設定が分かりやすく設定を行えます。

コンプレッサースレッシュールドユニット

```
Compressor Thd.  
in dB from Limit
```

レンジ：dBu；dB from Limit；dB from Clip

注：読み取りレンジが「リミッターからの値」に設定される時には、調整可能範囲は関連してきます。

コンプレッサーリンク

```
Compressor Link  
No Linkage!
```

レンジ：No Linkage!；Input [A] [B] [S]；Input: [A/S] [B/S]；Input: [A/B/S]

注：どうぞ、このオプションについての詳細のための「コンプレッサーリンク」という表題を付けられる「追加の注意」セクションを読んでください。

アウトプットメーターユニット

Output Meters
in dB from Clip

レンジ：dB from Limit； dB from Clip； Compressor G.R.

注：最初の2つのメーターモードを区別するために、ノーマル（クリップからの値）メーターの時は、棒グラフタイプメーターです、リミッタースレッシュホールドからの値の時は、動きがドットスタイルメーターとして示されます。

これは出力メーターに影響するだけで、いつも入力メーターはクリップからの値を表示し、いつも棒グラフスタイルです。

メーターピークホールド

Meters Peak Hold
Automatic Clear

レンジ：オートクリアー、押してクリアー

注：ユニットのすべてのクリッピングを防ぐために、メーターがそれらのクリップLEDを自動的にクリアーできないように設定できます。

それらは、各アウトプットポットを押すことによっていつでも手動でクリアーできます。

約2秒の間、ポットを押しつづけることにより、すべての点灯したLEDはクリアーされます。

ディレイユニット

Delay Units Are
Metric

レンジ：タイム(μ S)；タイム(mS)；メーター； インペリアル

注：最少ステップは21 μ sです。

ディレイ温度補償

Delay Temp.
Compensate: 32°C

レンジ：0 ~ +40°C

注：もし前のオプションで表示を距離から時間関連表示にしているなら、ディレイ温度補償は+20 に固定されます。

この状態の時のディスプレイは、

Delay Temp. [Set]
Compensate: 20°C

クリップ/リミッターログ

クリップログは、入力メーターと出力メーターが、何時間最高点に達したかカウントします。この時間は、次にユニットのスイッチが入れられる時にでも、その最後の値から続くように、メモリーに蓄えられます。ディスプレイの最初の表示は、

```
Clip/Limit Log:
Encoder = Check
```

そして、エンコーダを回すことに、データはサイクルしていきます。

```
Log Time:003 Hrs
Ins [A/B]:0000345
```

最大出力レベル

```
Max Output Level
2.45V:Power Amps
```

レンジ：2.45V：Power Amps； 9.75V：Line Drive

注：この設定を変更することによりすべてのアウトプットに12dBパッドが入ります。このパッドは純粋なアナログであり、パワーアンプをドライブする時に、アンプの入力敏感差を正確にマッチするように切り替えられます。

ボルト表示にリミッターユニットをセットしていたなら、この設定はコントロール可能範囲に影響します。

ユーザーリスト修正

より早く言及されるように、それぞれの出力の調整可能なパラメーター数が多いいため（トータル33）、アウトプット選択コントロールのリストをスクロールすることが大変で、時間を無駄遣いしているかもしれません。このオプションは、最もよく使うパラメーターのうちの最高10項目を『ユーザー』パラメーターリストとして選び、作成することができます。もしこのリストが選ばれるならば、オプションの『Which List』下で、編集モードが可能な時、ユーザー選択パラメーターだけがリストに表示します。従って例えば、ユーザーリストに必要な唯一のパラメーターは、クロスオーバーポイントとEQが選ばれていて、ディレイタイム、フェイズ調整、レベル、リミッタースレッシュールドも必要かもしれません。

このオプションを選ぶことにより表示は

```
Modify User List
Output Lvl: ____
```

オプションによって、このアイテムを追加するか、または削除するかを選びます。これは、表示することで追加され上記の『 ____』は、パラメータがリストに追加されません、および...

```
Modify User List
Output Lvl: USER
```

もしパラメータがリストにあり、オプションでセレクトキーを使って選択したなら、ヘルプテキストの最上段は自動的にトグルします。
しかし、示されたパラメータがリストにすでにあるかどうかについて情報は関連します。
ちょうどこれのように、

```
Modify User List
Output Lvl : ____
```

トグル表示

```
ENTER = Add! [04]
Output Lvl : ____
```

カッコの数は、いくつかのパラメータがリストに追加できるかを示します。パラメータはすでにリストに入っています、最上段を見てください、

```
ENTER = Delete!
Output Lvl : USER
```

エンターキーを押すことでトグルで選ばれたパラメータをリストから追加するか、解除するか選択でき、右に付随テキストによってアップデートします。
もし10のパラメータが選ばれたなら、別のものをリストに追加したい時、リストの最後にリスト登録したものが自動的に表示されます。最上段にはメッセージが以下のように表示されます...

```
10 Item Limit!
Output Lvl : USER
```

トグルをすると

```
Modify User List
Output Lvl : USER
```

もしリスト内の現在アイテムが選んだならば、または...

```
ENTER = Delete!
Output Lvl : ____
```

もしなければ、

もし違うものが追加されることになっているならば、ユーザーは、その時、リストを通じて戻り、いくつかのパラメータを削除する必要があります。

どのリストか

ユーザーパラメータリストの構造と結び付き、フルリスト又は、ユーザーリストか選択できます。これは以下のように単に選ぶだけです。ディスプレイを見てください

```
Which List?  
All Parameters
```

又は

```
Which List?  
User Parameters
```

もし現在プリセットが使われているならば、プリセットのためのPINが正しく入力されない限り、選ぶことはできません。これらの状況は以下のようにディスプレイで見ることができます。

```
Which List?  
OEM Parameters
```

注意してください、もしユーザーリストが空にされたならば、このオプションは、「オールパラメーター」に自動的に切り替わります。そして、「ユーザーパラメータ」を選ぶことができなくなります。

ロックアウトピン

セキュリティロックアウトは、2つのレベルでフロントパネルによってユーザーが望まれない改変を防止する様に設定できます。完全なロックアウトはすべてのコントロールを使用不可にします。部分的なロックアウトは、メモリーリコールおよびプレビューアクセス、ミュートスイッチとポットの使用を許します。

PINとして使うためにユーザーが5桁の数を選ぶことはできます。

最初、これは『None』として表示され、エンコードによりこの数を進める事ができ、ロックアウトは、作動状態に部分的にされて、『ENTER』ボタンを押すことにより、メモリーリコールがロックアウトモードにおいて許される必要があるかどうかについての問題が表示されます、以下のように、ヘルプは以下のように途中で表示されます。

```
Lockout PIN ...  
Select No.:None
```

それから

```
Lockout PIN ...  
Select No.: 24351
```

ENTERを押すと表示します

```
Allow Recalls  
When Locked? No
```

エンコーダで、はい、またはいいえを選びます。そして、ENTERを押した時点でこのユニットは、選んだPINによりロックがします。ディスプレイは簡潔に表示します。

```
Unit is Locked!  
Options = Unlock
```

正常なスクリーンディスプレイに戻る前に、PINなしでユニットをロックすることが可能であることに注意してください、もし必要ならば、今、他のボタンを押して下さい、オプションを除いて、または、エンコーダを回すことにより、「ユニットはロックされます！」メッセージが表示されます。もしメモリーリコールを許すために、ロックアウトが設定されたならば、エンコーダを回すことでメモリーをスクロールします、そして、入力ボタンはまだアクティブです。

すべての他のボタンは動きません。

アンロック

オプションを押すと以下のように表示されます。

```
Lockout PIN ...  
Select No.:None
```

それから、ENTER押すとディスプレイは

```
PIN Accepted,  
Unit Unlocked!
```

もしコードが正しかったならば、正常なディスプレイとオペレーションが続けられます、または、

```
PIN Incorrect,  
Unit Locked!
```

もしコードが違ったならば、正常なディスプレイが続きます、そして上記と同じシナリオで押すことも回転させることもできます。ロックモードでのポット/ミュートアクセスについての追加セクションを見てください

- only for version 1.16-

外部の通信チャンネル

```
External Comms  
Channel : 1
```

レンジ：1～32、又は「受信のみ」

注：どうぞ、完全な説明のための「メモリーDumps...」という表題を付けられるセクションを読んでください。

ユーザーメモリー保護

最初の30のユーザーメモリーに上書きを禁止する保護を掛けることができます。これは、メモリーリコールや編集する能力に影響しません、それはただそれらの位置に保存することを防止します。

このオプションを入力するとすぐに、スクリーンは以下のように表示します。

```
Memory Protect  
Is Off!
```

現在、いくつかのメモリーを保護するかエンコーダを回すことは選べます、初めから最大30番目まで。選ばれたメモリーの数は、いつも、連続しているブロックにあります。

```
Memory Protect  
First Mem Only
```

```
Memory Protect  
First 2 Mems
```

最大で

```
Memory Protect  
First 30 Mems
```

保護されたメモリーは、信号ルーティング情報のまわりにマークを付加により意味されています。

```
ROD WEMBLEY #01  
!1A 2A 3B 4a 5-!
```

これらのマークが見られえないという時は、メモリーが、この前思い出されたメモリーであるということです。そして、マークは<>になります。

保護されたメモリーにストアーを試してみても、保護されたメモリーにアクセスができないのでストアーはすることができません。

メモリーダンプ

このオプションは、ユニットデータのコピーを容易にするようにメモリーが別のDN8000からコピーされることを可能にします。どうぞ、進む前に「DN8000外部のComms 接続」という表題を付けられるセクションを読んでください。このシステム専用のプロトコルを使用しています - ユニットの調整では、他のユニットに対しリクエスト設定をします - 情報は決してどのようなユニットにでも送ることはできません。単にスイッチが入れられて、バックパネルのRS485ソケットと宛先ユニットとで接続する事によりコピーを受け取ることができます。設定を不注意に上書きしないように、保護はシステムの最高の重要性で、この終わりにこのオプションの少し高度な説明を載せてあります。

最初のディスプレイ表示は

```
Memory Dumps ...  
None Requested!
```

そして、もしオプションメニューを活用するならば、いつもこの状態が出てくることに注意して下さい、またオプション内のメニューで再び選ばなくてはなりません。エンコーダを回すことでダンプする内容をスクロールします。これらは

```
Enter = RX Dump:  
User Memory #NN
```

入手可能なユーザーメモリーの範囲で、

```
Enter = RX Dump:  
All User Mems
```

使用中メモリーも含みます。

リストの最後に、使用中メモリーだけの要求があります。このように

```
Enter = RX Dump:  
Working Memory
```

要求できるメモリーの範囲がメモリー保護オプションの設定と関連することに注意してください。保護されたメモリーは要求できません（上書きされません）。「すべてのユーザーMems」オプションが選ばれる時でも、最初～32までのプロテクションがないものと、使用中のメモリーしか、要求できません。

要求を送るためにユニットがグローバルコモンの通信チャンネルにセットされなければならないことに注意してください。もしそれが警告としてでないならば、ENTERが押される時には表示されます。

```
Enter = RX Dump:  
Comms Not Global
```

さもなければ、ENTERを押すことにより、示された設定のための要求は送られます。もし他のユニットのスイッチが入れられて、正しく接続されるならば、メッセージを表示します

```
Sending Mem Dump  
Please Wait ...
```

デフォルト（パワーON）モードに戻る前に。

ダンプを受け取るユニットは

```
Receiving >>>:  
: #NN
```

NNのところにメモリーナンバーが示され、そして、数のそばのコロンは、待っていることを示します。複数のメモリーのダンプが要求される時には、これは適切です。使用中メモリーが要求された時、ディスプレイには

```
Receiving >>>:  
: Wkg
```

実行において、下段の空白は、ブランクではなく様々な判定を行っています。エラーなしでメモリーが完全に受け取られた時、下の行には名前がアップデートされます。そして、コロンは、完成を示すために消えます。このように

```
Receiving Done!  
ALL WEDGES #12
```

一つのメモリーの受け取りは、1秒以内です。合計32のメモリーと使用中メモリーの完全なメモリーダンプの受け取りは、30秒位で取り入れることとなります。両方のユニットはこれらの状況のもとで、置換設定のチェックが終わらないとメモリーが書かれませんが、ダンプ同士のユニット間にどのようなユニットの妨害しないでください。

もし問題があり、受領ユニットが何も受け取らなかったならば、以下は表示します：ENTERを押した後に、いくつかの設定変更をディスプレイで要求してきます

```
Awaiting Dump...
```

下段のラインは、ユニットがギブアップするまで調査をしています。（4秒位）そして

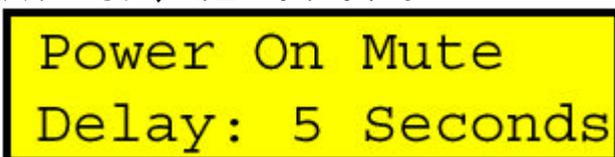
```
Request Expired!  
Check Other Unit
```

それから、再びリクエストスクリーンに戻ります。もし問題があったならENTERを押すことにより、その都度表示され、設定を確認しなくてはなりません。

2つのユニットだけがこのように一緒に接続できることに注意してください-複数のユニットは、接続されているとプロトコルによって全てのユニットを同時に書き換えてしまうかもしれません。しかし、もし複数ユニットが接続されるなら一緒に完全なりモートコントロールすることは可能です。

「DN8000の外部コモン接続について」という表題を付けられるセクションを見てください

パワーオン、ミュートディレイ



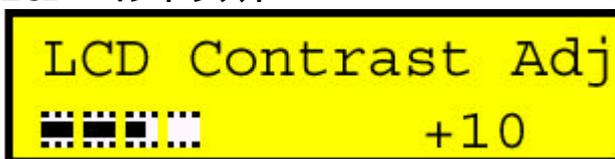
Power On Mute
Delay: 5 Seconds

レンジ：1～30 秒（1秒ステップと永久）

注：DN8000は起動DSPを持っており、『None』は、すぐにオーディオ信号を出力することで、『Permanent』では、ユーザーによる手動でのミュート解除しなければなりません。メイン電源によるオーディオの大きいノイズスパイクを結果として生じるかもしれない間や迅速な連続の2つのスパイクが、ユニットを、システムの次の部分を保護するために恒久的にミュートして再起動します。（例えばスピーカー）

プリセットディレイ期間、不動作をミュートをフラッシュさせて表示した後に起動する時、ミュートは、最後の3秒間は2倍の速さで点滅して知らせてくれます。

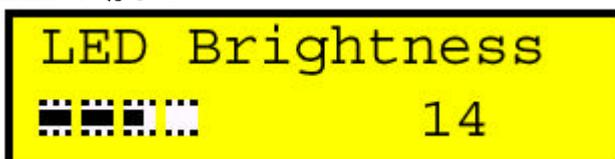
LCD コントラスト



LCD Contrast Adj
+10

レンジ：-10～+10

LEDの明るさ。

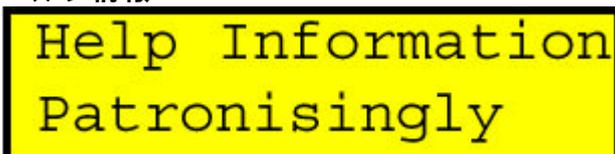


LED Brightness
14

レンジ：1～14

注：この設定によりすべてのインジケータの明るさが調整されます、しかしバックライトのLCDは最高で固定されています。

ヘルプ情報



Help Information
Patronisingly

レンジ：Patronisingly（指導）、Thoughtfully（親切）、Smugly（自己満足）

注：<Patronisingly>は、全てのヘルプメッセージです。<Thoughtfully>は、間違えると大きな問題に発展する時、<Smugly>は、問題が起きた後に表示します。ヘルプメッセージレベルはシステムオペレーションの多くの部分に影響します。最小レベルの設定では、ス

トアーをする時、オプション又はエディットモード、そしてメモリアクセス時のストアーとリコールモードの時はメッセージは起動しません

ソフトウェアバージョン

```
Software Version  
1.16 - 01/04/98
```

エンジニアプロフィール

各エンジニアが様々な場所や違う現場でDN8000を使う可能性を考慮に入れ、ユニットオペレーションを個人的なカスタマイズ可能なオプション設定を行う事ができます。現在、プロフィールとしての最高6人オプション設定を可能にしました。直ちに、オプションメニューをエンジニア好みにリセットしてください。

これは下に説明されます。

オプションメニューリストの終わりに2つの新規参入があります。

これらの1番目はエンジニア名オプションです。

```
ENTER=Edit Name!  
No User Name Set
```

EDITを押すことで、名前がカスタマイズすることができます。続いてユーザーIDオプションの同様にカスタマイズできます。スクリーンの表示は、

```
Name This Set Of  
Eng'r_Options...
```

現在の名前の最初の文字の場所でカーソルが現れます。エンコーダは、文字を変更するために使用されて、SELECTキーはカーソルを動かします。両方のSELECTキーを押し続けると名前をデフォルトにリセットします。

```
Edit This Name:  
No User Name Set
```

ENTERを押すことによりこの新しい名前は受け入れられます。

```
Engineers Name:  
WARING HAYES
```

この名前はプロフィールの一部として蓄えられます、そして、選びどのプロフィールを使うか選んで使用します。

その選択は、次のオプションを使うようにされます。

Choose Engineer:
SIMON MOSS

エンコーダを回すことでユーザープロフィールをスクロールして使用することができます。5個はプロフィールの内、1つを使用することができます。この時点で、個別にストアーとしてリコールを行う事を避けるために使われた方法は、必要なプロフィールが選んで、ENTERが押されることです。これは、ディスプレイの最上段に表示され選ばれたプロフィール名によって立証されます...

SIMON MOSS
Options Active!

この時に、オプションメニューは、プロフィール名で供給される設定に変わります。エンジニア名とともに、たった今選ばれた現在のオプションのセットに変わります（それによって交換されます）。これは、エンジニアの再注文によりリストから開き結果として生じるけれども、たった5個あるだけで、わずらわしさを生じません。

ENTERを押すことにより古いプロフィールは常に交換されます（もしエンコーダが動かされなかったならば）。

オプションメニューのすべてのアイテムはプロフィールに蓄えられるわけではありません。それらを以下にリストしています。

- The unit's ID name;
- The engineer's name;
- The LCD contrast;
- The LED brightness;
- The Delay units 表示出力;
- The Delay 温度補償;
- The 12dB pad setting;
- The Limiter Threshold units表示出力;
- The Compressor Threshold units表示出力;
- The Compressor Linkage mode;
- The Output Metering mode;
- The Output Metering peak hold 動作;
- The Power On Mute delay;
- The Help System (User/All parameters);
- The Number of Protected Memories;
- The User List of Favourite Parameters.

セキュリティ理由のために、通信に関係しているすべてのオプション、そしてロックアウトは記憶しません。その上、ワーキングメモリーが、プリセット（入手可能なあらかじめ決められたパラメータリスト）を含んでいる時に、オプションの違うセットをロードすることは、使用において、プリセット（または、プリセットのコピー）のための編集可能なリストに上書きしません。

いったんユーザーオプション（プロフィール）のセットがされているなら、オプションメニューへ入る時にメッセージ表示詳説だされ、オプションのどのセットが使われているかを示します。これのように...



Options Set For
WARING HAYES

Connecting DN8000's for External Comms



どうぞ、DN8000でのRS485通信を使う前に、次の点に注意してください。

- 1) RS485は、ノード（ネットワークにアクセスできる接続ポイント）ベースのシステムです。すなわちどのユニットでもライン上のユニットが永久的なマスタで、すべてのユニットはすべてのデータを受け取ります。これはイーサネットと同じ原則です-後ろパネルのインプットとアウトプットソケットは、ハードウェアにおいて、通って接続されます。もしユニットがそれに失敗したとしても、リンクされた以下のユニットへの通信の妨げはしません。
- 2) ユニットのチェーンしている次のユニットには、IN/OUTで接続しなければなりません。それは最初のユニットに戻してループを組む必要はなく、もしそれがシステムであるならば、正しく機能しないでしょう。
- 3) チェーンの最初と最後のユニットは、「ターミネート」スイッチを「オン」にセットしなければなりません。（Ver1.16以前）（リアパネルの矢の方向に）。それ以外すべてのユニットはターミネートを「オフ」にセットして下さい。これは、イーサネットに基づいたシステムと同じ扱いができます。もしこれが接着されないならば、影響はトランスミッションケーブルに沿って起こり、予測不可能な結果を起こします。
- 4) ユニットの複製やメモリーダンプの時、ライン上には2つのユニットが共同で同時にまた同チャンネルで存在できます。-ダンプを要求しているユニット、およびダンプを送っているユニット。
- 5) ユニットのチェーンが一緒に接続されて、そのスイッチが入られる時には、もしどれかのユニットが調整されるならば、同じチャンネルのすべてのユニットは、同じパラメータ値が反映するでしょう。

このマニュアルのリモートコントロールセクションで述べているように、2つの接続された装置が4インプット10アウトプットクロスオーバーとして動作するように、現在のプロトコルが意識的にデザインされています。

リモートコントロール

このリモートコントロールは、選ばれた名前のトランスミッションを含むEDITメニュー、メモリーリコール、およびメモリーストアやすべてのコントロール可能なオーディオの機能を拡張します。このモードは、一台のユニットが4インプット10アウトプットクロスオーバーとして切れ目のないに動作するように一緒に接続されるように、複数のユニットのチェーンのために本当はデザインされません。複数の装置に接続をしても動作はするけれど、どのユニットのパラメータを調整することにより、すべての接続されたユニットは同じ値に設定されます。このモードにおいて動作するように、両ユニットの同じ外部通信チャンネルは、同じにしなければなりません。どちらのユニットでもマスタユニットとして仮定することができます-その機器は最も良く、2つのユニットを単一の機器とみなして、いつもお互いにコントロールすることができます。この方法によって変更を行ったことが随時伝わります。

メモリアクセス-概要

メモリアクセスの構造は、編集する時に、柔軟性を最大化するための以下のような方法が取られています。

編集は、ユーザーメモリアクセスに直接実行するわけではありません-『ワーキングメモリアクセス』と称されるスクラッチパッド（メモ帳）があります。

ワーキングメモリアクセスはシングル・ユーザーメモリアクセスとして同じように構造化され、バッテリーよりバックアップされています。これは保有する利点を持ち 電源をOFFにして、電源をONにした時でも続行することができます。

ユーザーメモリアクセスは、リコールしたらワーキングメモリアクセスに編集や後でストアを可能にするために蓄えられます。しかし、すぐ、ワーキングメモリアクセスが編集されると（従って、そのリコールされたオリジナルのバージョンとは違います）、メモリアクセスの名前は小文字に変わります：

```
abba wembley #01
1A 2A 3B 4B 5-
```

もしすべての変化を戻したなら（例えば、ミュートをオン/オフ/オンしたら）メモリアクセス名は、現在のワーキングメモリアクセスが、それが呼び戻されたユーザーメモリアクセスと同じであることを示すために、大文字に戻ります：

```
ABBA WEMBLEY #01
1A 2A 3B 4B 5-
```

メモリーリコール

一般的なメインスクリーンは、同様です。

```
ABBA WEMBLEY #01
1A 2A 3B 4B 5-
```

このスクリーンにおいてエンコーダを回すことで、メモリーをスクロールし、メモリー名とナンバー、およびその信号のルーティングの詳細を示す要点が、スクリーンの最上段をアップデートします：

```
ROD WEMBLEY #05
1A 2A 3B 4- 5-
```

このスクリーンメッセージと交互に表示します：

```
Press and hold
ENTER to recall
```

メモリーについての補足情報は、フロントパネルのアウトプット選択ボタンを押すことによって得られます。これは、アウトプットのルーティング情報、およびハイ/ローパス周波数設定を表示します：

```
1:From:A ; 0dB
20Hz-350Hz
```

注意してください、アウトプットアサイン『-』（Nothing）は、割り当てがありません、下記のように表示されます：

```
5:No Input; 0dB
20Hz-350Hz
```

リコールされたメモリーが決まったなら、これは、ENTERを押し続けることによって確認され、メッセージは切り替わります。これは、減衰棒グラフで表示され秒読みを開始します。

```
Ready to recall:
■■■■■ Hold key!
```

ENTERキーが保持される限りバーは減衰します。この減衰のスピードはヘルプレベルそして、メモリー比較アルゴリズムの結果。によって決定されます。もしリコールされたメモリーが労働メモリーと全く違うならば、保持時間は最大値に達するでしょう。これは、『HOLD Key』と大文字で示す表示をすることで結果として表します。:

```
Ready to recall:
■■■■■ HOLD key!
```

もし棒グラフが0になるまでにENTERをリリース（離れたなら）したならば、リコールの作動効果はアボート（終了）し、スクリーンに表示されます：

Recall has been
aborted!

もしENTERが保持されて、棒グラフが0になったならば、メモリーは完全にリコールされま
す：

Recalling...
■■■■■■ Hold key!

注：最後にリコールされたメモリーは、スクリーンの下段のアウトプット詳細をカプセル
化するために<>を使用して示します：

ROD WEMBLEY #05
<1A 2A 3B 4a 5->

メモリーセーブ

ストアーを押すと、最初に表示します：

```
Store Mem:Press  
Again to Exit!
```

続いて...

```
Store to Memory  
ABBA WEMBLEY #01
```

それと交互に表示します...

```
Press ENTER to  
accept location
```

もし場所を選ぶために、メモリー名のリストをスクロールして、それから、ENTERが押されたならば、メッセージ変化 ...

```
Store = Confirm!  
ABBA WEMBLEY #01
```

カーソルは名前の最初の文字の下、文字を選ぶためにエンコーダを使用することで変更が可能になり、セレクトキーでカーソルの移動ができます。

ストアーを押すと表示が変わります：

```
Ready to store:  
■■■■ Hold key!
```

もしユーザーメモリーがワーキングメモリーと全く違うならば、保持時間は最大値に達するでしょう。これは、『HOLD Key』を大文字表示することで結果として表示します：

```
Ready to store:  
■■■■ HOLD key!
```

もし棒グラフが十分に減らないでSTOREをリリースしたならば、ストアーの作動効果はアボート（終了）し、スクリーンに表示されます：

```
Store has been  
aborted!
```

もしSTOREが保持されて、棒グラフが0に衰えるならば、メモリーは完全に保存されます：

```
Storing...  
■■■■■■ Hold key!
```

ストアされた最後のメモリーは、スクリーンの下段のアウトプット詳細をカプセル化するために><を使用して示されます：

```
ROD WEMBLEY #05  
>1A 2A 3B 4a 5-<
```

これらのマークが出現しないという唯一の有り得る事は、メモリーが保護されている時で、それらは『！！』になっています。

OEM Pre-sets

これらは、スピーカー製品システムのための設定を最適化するためにプリセットされたメモリーです。OEMプリセットがメモリーの後半に置かれています、すなわち最初のメモリー-32の後に置かれています。それらがメモリーナンバーを持っていないので、プリセットはそれらの名前から識別しなければなりません-それらの名前はナンバーの代わりに、最高16文字で表示されます。これだけでなく、プリセットのリコールの時には、以下のメッセージは表示されます：

```
Recalling...  
===OEM Preset===
```

そして、プリセットは：

```
EV DS 4183  
<1A 2A 3B 4a 5->
```

より一層の保護は、OEMによるプリセットに追加されます。ユーザーメモリーによってすべてのパラメータを編集することができる代わりに、編集は、OEMより入手したパラメータのリストからだけです（ユーザーパラメータリストと同様です）。これはオプションメニューにおいて確認でき、すぐに変更できません：

```
Which List?  
OEM Parameters
```

これはwhich listによるオプションだけです。このリストの部分修正は、OEMにより供給されたパスコードによって保護されます：

```
Modify User List  
Access No.:None!
```

以下と交互に表示します：

```
Access Denied!  
Access No.:None!
```

エンコーダを回すことにより数が選べ、コードが選べます。正しいコードを入力して、それを受け入れるために、ENTERを押してください。リストはその時編集可能です。

ADDITIONAL NOTES.

Compressor Linkage.

ダイナミックを制御することはシステムのステレオのイメージまたは周波数応答に変わります、コンプレッサー同士のサイドチェーンを接続することができます。これはオプションメニューを通して設定ができます - 詳細のためのより早い操作上の記述を見てください。設定可能な4つのモードがあり、特定のモードを設定すると5つのアウトプットに同時に影響します。これらは様々なタイプのインテリジェントなリンクを実施し、次の通り考えられます。

モード1 - 「ノーリンク！」この設定においては、合計5つのコンプレッサーが完全に独立です。

モード2 - インプット：[A] [B] [a] このモードは、インプットから供給されるアウトプットのサイドチェーンを接続します。
従って、例えば、インプットA から、アウトプット1と2、インプットBからアウトプット3と4、およびインプットAとB (a) の合計からアウトプット5に供給されたならば、1と2の両方のアウトプットにおいては、どちらのスレッシュホールドに出力がかかったなら両方のアウトプットにコンプレッサーがかかります。同様に、3または4にコンプレッサーがかかってなら、両方の出力に影響するでしょう。アウトプット5のコンプレッサーは、他のアウトプットに影響しません。

モード3 - インプット：[A/a] [B/a] このモードは、インプットから総括的に供給されるすべてのアウトプットのサイドチェーンを接続します。
例えば上記の例と同じようにルーティングを組んだとします。アウトプット1,2,5のコンプレッサーはそれぞれに影響します、アウトプット3,4,5のコンプレッサーはそれぞれに影響します。

モード4 - インプット：[A/B/a] このモードはインプットに関わらずすべてのコンプレッサーを接続します。この操作によってどのアウトプットにおいてもコンプレッサーはすべてのアウトプットに影響します。

どうぞ、合計3つのリンクモードを確認してください、コンプレッサーは、すべての接続されたアウトプットに適用できます、しかし「リンクされた」ゲインリダクションは、様々なスレッシュホールドセットが依存します、しかしどのコンプレッサーのアタックやリリースタイムは最も大きいスレッシュホールドの限界を持っています。このインテリジェントなリンクは、接続されたコンプレッサーの動作をできる限り分かりやすくするために努力します。分かりやすいオペレーションのために推奨される最大の比率は5:1です。

Compare Function.

編集する間に、2つの完全なユニット構成の間で交換することができます。比較機能は編集モード（エディットに入った）に限り可能で、比較は、ENTERキーを押し続けることによって実行されます。これは、現在の設定を、『比較』バッファに蓄えられたものと交換します。

リコールが実行されたすぐ後に、『比較』バッファに蓄えられた設定は、ワーキングメモリーと同一です。

これは、最後のメモリーと現在のものと根本的に違う（ことによると危険なほど）のため偶然の再構成に対して保護することになっています。

ディスプレイは、いくつかのメッセージのうちの1回を、ユーザーに警報を出し明らかにし、比較は実行されます。これらは、比較されている現在の構成と構成の間の変化を詳説します。もし変化が全然ないならば-例えばメモリーリコール後の後のディスプレイは、

**No Changes Made
To Compare With!**

その後、編集されたパラメータに戻ります
もしコンペアメモリーがワーキングメモリーと聞こえ方が同一ならば ディスプレイ表示は

**Swapping-But No
Audible Changes!**

これは、これらの変化が可聴信号に影響しない所で以下のためのケースです：

- ラベル；
- HPF/LPF周波数を変更して、もしレスポンスがオフに設定されている時；
- PEQ周波数 / 『Q』を変更して、もしフィルタレベルが0dBに設定されている時；
- Low / HiEQフィルタ周波数 / スロープを変更して、もしレベルが0dBに設定されている時；
- コンプレッサーアタック / リリース / スレッシュホールドを変更して、もし比率が1:1に設定されている時；
- ゲートスレッシュホールド / ディケイを変更して、もしレンジが0dBにセットされている時；

もし可聴的变化があるならば、これらの変化がメニューが示されるでしょう。例えば、もしアウトプットレベルにだけ変化があるならば、ディスプレイ表示は

**Swapping-Changes
In Main Only!**

またはもし変更をパラメータのフィルタ設定とリミッタースレッシュホールドに行ったならば

**Swapping-Changes
In EQ, & Dyn!**

安全のために、『比較』バッファは電源再投入時はワーキングメモリーと同じで初期設定されます。

単一メモリーリセット

単一メモリーはデフォルト値にリセットできます。これをするためには、点滅ディスプレイにするために、STOREを1回押してください：

```
Store to Memory  
ROD  WEMBLEY #05
```

それと交互に表示されます、

```
Press ENTER to  
accept location
```

この時に、両方のSELECTキーを押し続けることでメモリーはリセットされます：

```
Resetting #05 to  
Default Settings
```

メモリー名を編集

ストアをする前にメモリー名を編集する時、最後に保存されたメモリー名は、ENTERを押し事で編集可能になります。カーソルは、SELECTキーにより移動可能で、エンコードで文字の変更ができメモリー名を変更又は登録できます。

ミュートスイッチ

すべての出力チャンネルは、ほんの1つのミュートボタンを押し続けることで消音できます。これは、アウトプットをソロする時に有効です。

A/Dコンバーターカード&入力レベルコントロール

ユニットが起動する時 ADCカードが存在するかどうか（十分にデジタルのI/Oカードと対比されるように）をチェックし、そのカードのどんなタイプであるか、もしどのカードも存在しないならば、警告は表示されます：

```
Input Card Not  
Present/Faulty!
```

もしカードが、未認識であるタイプであるならば、実際のタイプ数が表示されます：

```
Unrecognised ADC  
Card Type:
```

もしカードが、標準のまたは強化された20ビットADCを使うならば、インプットレベルコントロールが回されて、ゲインステップを増大する時は、デジタルにコントロールされたアッテネーターの含有のためスクリーンに報告されます：

Input A: -11.7dB
Input B: -10.9dB

ダブルポットのインプットポットは、摩擦ロックせず、それらは独立して動作します。しかし、それらは、2つを同じポジションに設定し、それらを数回一緒に回すことによってソフトウェアを経て「ロックできます」。ユニットはこれを認識し、ディスプレイを以下のように変更します...

Inputs Ganged!
A and B: -10.9dB

この時点で、両方のチャンネルのゲインを同時にコントロールするには、ポット（チャンネルA）の上のみを回すことだけです。それらは、ポットの下部分を別々に回すことによって解除することができます。電源の再投入においても「摩擦-ロック」はソフトウェアに記憶されています。

バッテリーロー警告

もしメモリーバックアップバッテリー容量が低下状態でスタートしたならば、これは起動の間のスクリーンに報告されます。これだけでなく、また、この警告を与えた回数も表示されます：

Back-up Battery
Voltage Low !

以下と交互に表示します：

Service Required
Warning No.: NN

DN8000が有資格の人員にだけに開封されることが推奨されます。もしバッテリーが交換されず、RAMが墮落するならば、それはデフォルト値によって再初期設定されてしまいます。これはフォームのメッセージにより明白にされます...

Resetting #NN to
Default Settings

および ミュートのLED点滅をします。RAMは、できる限り多くのユーザーメモリーを保存するために、メモリーベースによってメモリーをチェックします。それらだけがリセットされます。

三次元メーター監視

正確なレベルの計量はクロスオーバーでは特に重要です、オーディオの流れの中でシグナルプロセッサは最後になり、もしパワー増幅器の前の個々のドライバーでクリッピングが起きてても保護することができません。

ずっとメーターをエンジニアが監視する時には、伝統的な棒グラフレベルメーター計量が、クリップを検出するのに有利です。もしオーバーレンジの信号が一時的で、その時メーターが直接見られていなかったならば、クリップ条件の発生は見逃すでしょう。

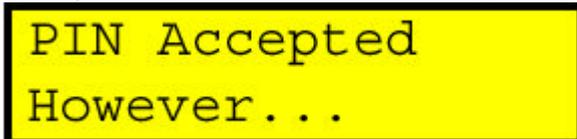
どうしたらこの状況を緩和する事ができるか研究してください。性能のドラマチックな改良と情報の表示とDN8000に組み入れられる計量に注目してください。増大した信号のレベルを表現してより多くのインジケータを光らせる伝統的な方法と同様にメーターの明暗度を調整します、増大した信号のレベルを表し、範囲条件以上では、順調に登録されます。

実行において、どのようなアウトプットでもクリップ（またはリミット、もしメーターオプションを変えているなら）が全体の出力メーターグループの明暗度の大きい段階を起こします。これが増加であるか、または、明暗度の減少がオプションメニューのLED明るさの設定に依存するかどうかにかかわらず、同様に、インプットのクリッピングでは両方のインプットメーターに明暗度を変更させます。上範囲条件を起こした実際のメーターは、それらのピーク（赤）LEDを持ち、約1.5秒の間続きます。たとえ上範囲条件を示す期間の間、オーバーレンジな特別な状態でも明滅させ、クリッピングポイントを示すメーターグループは、頻繁な明滅でクリッピングポイントを規則的に越えていることを示し重大度についていっそう多くのフィードバックを与えます；永久的な高い又は低い明暗度またはメーターグループは、厳しいクリッピングを示し、おそらくはっきりと聴感上で分かるでしょう。

注意してください、メーターがdB from clipモニターメーターの時のノーマル（棒グラフ）モードで、もしクリッピングが、どこかのシグナルパスに存在しアウトプットメーター（例えば、パラメータのフィルタはブースト状態を非常に多く持っています）では、そのチャンネルのクリップLEDと無関係に点滅し、通常の間暗度変化を起こします。たとえチャンネルがミュートされても、この監視は続けます。従って、もしミュートされたチャンネルが赤いLEDが付いているならば、歪みを意味し、もしチャンネルがノンミュートならば、聴感上でも歪みが起きているでしょう。

ロックモードのPot / Mute作用

部分的なロックモードは、ミュートのスイッチおよびインプット / アウトプットポットの動作を可能にする一方、完全なロックモードはこれらのコントロールを動作不可にします。もしそれらプリロック設定に関連していくつか様々なポジションに設定されるならば、ユニットのロックを開ける正しいPINを入力したなら、以下の表示を示します、スクリーン表示は（PINを試すためにENTERをすぐ押した後に）



PIN Accepted
However...

続いて

Pots Moved While
Unite Was Locked!

それと交互に表示します、

STORE=Accept New
EDIT=Correct Now

この時に、行動の2つの可能なコースがあります。

STOREを押したなら、直ちに新しいポットポジションを受け入れて、それに応じてオーディオデータをアップデートします。これはレベルの不意の変化を生み出すため注意してください。ユニットはその時再び正常に動作します。

EDITを押すことによりポットリコールモードは始められます。そのプリロック設定と違う個々のポットは、ポットがより高いか低いにかかわらず、それに適用可能なLEDメーターを使用して次々明暗させます。

上の一つの赤いLEDと、二つの黄色LEDでは反時計回しポットを回転させること意味し。下の一つの緑色のLEDと、二つの黄色LEDでは時計回しに回転させることを意味します。またスクリーンメッセージ詳細は問題のポットや必要な動かす方向を示します。

設定がマッチしている時には、黄色のLEDの二個が明るくフラッシュし、それから、次のポット調整が必要はものが選ばれます。このプロセスは、すべてのポットの値がプリロック値にリセットされるまで続きます。

プロセスの完成によって、メーターは再スタートし、ユニットは正常に動作します。このプロセスの間にユニットのスイッチを切ることは、再び行わなくてはなりません。

Quick Lock.

これは、ユニットロックの速い方法で、ロックアウトPINの割り当ての照合なしで行えます。スクリーンには、両方のSELECTキーが一緒に押した時に、クイックロックのスイッチが入れます。クイックロックを解除するには、再び両方のSELECTキーを一緒に押し続けてください。

一般的なプリセットと設定テーブル

テンプレートの選択は、必要なシステムの設定を援助するために、ユニットに含められています。これらは、ユーザーメモリーに続いている9つのプリセットです。それらすべてはOEMパラメータリストを持ち、最も重要なパラメータだけが、編集することで利用可能です。もしアクセスするならば、このリストを修正するために必要である合計9つの一般的なプリセットのロックPINに00001を入力することによって開けられえます。一般的なプリセットの詳細は以下に示してあります。

バージョン1.16のための新しいプリセット

X-Arrayシステムのコントロールが専門の2つのプリセットは、version1.15から削除されて、6つの多目的で、十分に再構成可能なバージョンのセットと交換されました。それらは以下の通りです。

EV XCB,XCN-ST;
EV XCB,XN-ST;
EV XDS;
EV XF,XB-ST;
EV XF,XN,XB,XC and
EV XN-ST

これらのプリセットについての完全な詳細は、リクエスト次第使用できます。



Midas Consoles Japan Division ダイヤルイン：03-6661-3801
URL:<http://www.midasconsolesjapan.com> Email:info@midasconsolesjapan.com



本 社 〒 130-0011 東京都墨田区石原 4-35-12 TEL 03-6661-3825 FAX 03-6661-3826
大阪営業所 〒 531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 3-4-14-602 TEL 06-6359-7163 FAX 06-6359-7164
URL:<http://www.bestecaudio.com> Email:info@bestecaudio.com

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する事があります